

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
黒井駅周辺地区(第二期)

平成30年2月

新潟県上越市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	黒井駅の乗降客	人/日	500	525	611	確定 ●	○	あり				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	駐車場・駐輪場は常に満車であり、主たる利用者である中学生、高校生から継続的に利用されていることがうかがえる。今後は北陸新幹線利用者による黒井駅利用も期待できる。
指標2	地域住民の満足度	%	34.6	67.8	62.8	確定 ●	△	あり	69.3	H29年11月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	自由通路及び駐車場・駐輪場の整備など、設備の充実や、黒井駅に停車する路線、コミュニティバスのダイヤ編成などの利便性向上に係る情報が地域住民に浸透した結果、満足度が目標値を上回る結果となった。
指標3	施設の入込数	人/年	2,749	3,000	3,695	確定 ●	○	あり				<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	これまでの坂口記念館を活用した季節ごとのイベント開催に加え、坂口謹一郎生誕120周年を記念したイベントが新たに開催され、入込数の増加に繋がった。
指標4													

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定							<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標2					確定							<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3					確定							<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
・成果を持続させるために行う方策	黒井駅利用者の拡大	・黒井駅の利便性の向上を図るため、鉄道事業者など関係事業者への働きかけ、PRを行った。	黒井駅から北陸新幹線上越妙高駅へ直接乗り入れる「直接乗り入れ便」が通学・通勤時間帯に2本確保されており、利便性の向上が図られている。また、信越本線、ほくほく線の上下線合わせて32本が停車し、駅利用者の拡大に寄与している。	引き続き鉄道事業者への働きかけを行い、黒井駅停車便の増加を目指すほか、駅周辺地域に対して駅の利便性をPRし、利用客のさらなる拡大を図る。
	住民が中心となって企画・運営する観光事業の拡充	・観光協会やNPO法人、地域住民が中心となり、坂口記念館や軽便鉄道等を中心とした回遊ルートPRや施設巡りツアーなど、観光事業の充実を図った。	軽便鉄道はH29.12月末現在で既に入込客が過去3か年で最多(2,463人)となった。また、坂口記念館もH29.12月末現在で既に入込客が過去3か年で最多(3,788人)となった。	地域の団体・組織が、自発的かつ継続的に観光振興活動を行えるよう、助言・協力などの側面的支援を引き続き行う。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	交通の利便性の拡充	・黒井駅の利用者の多くは中学生・高校生、高齢者等の交通弱者であるため、より多面的な交通利用形態が求められる。このため、駅に乗り入れる鉄道やバスなどの各事業者への働きかけやPRを行った。また、バスのダイヤ改正による利便性の拡大や地元住民へのPRによる周知を行った。	H27年3月に初めて停車が実現した「ほくほく線」の本数が当初の3本から現在では6本まで増加した。また、路線バスも南川線10本、黒井駅線7本を確保している。	鉄道事業者・バス事業者に対し、停車便の増便や利用向上に向けたダイヤ改正などの働きかけを行い利便性拡充を引き続き図るほか、中学・高校の進学・入学時期に駅の利便性やバスの利用促進に係るPRを行うなど、効果的な周知を行う。
	新たなソフト事業の実施	・行政と地域協議会が合同で、地域の声を聞く地区別意見交換会を実施し、住民が抱く課題や問題、要望の聞き取りを行った。	開催した5会場に約110名もの方々からお集まりいただき、約70の意見、要望等を取りまとめた。	集約した意見・要望から、事業化可能なものの洗い出し作業を行い、地域との協議を経て具体化できるよう引き続き地域内協議を行う。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項